

(様式1) 実施報告書

1 補助事業者情報

(1) 事業者団体情報

団体名	千葉市
-----	-----

(2) 都道府県・政令指定都市との連携（申請者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人又は団体の場合のみ記載）

--

2 事業の概要

1. 事業の名称	千葉市における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業
2. 事業の期間	令和3年4月1日から令和4年3月10日まで
3. 事業実施前の現状と課題	<p>本市に在住する外国人市民は年々増加しており、令和3年3月末現在で28,525人、総人口の2.9%となっている。国籍別にみると、中国・韓国の次に多いベトナムの増加が顕著で5年前から約3倍に増えているなど、構成も変化し、さらに区により在留資格や国籍の割合に特徴があるなど、地域特性を把握した上での施策が求められている。</p> <p>日本語教育・日本語学習支援については、千葉市国際交流協会が、本市の多文化共生・国際交流・国際協力活動の拠点施設である「千葉市国際交流プラザ」で、日本語交流員(ボランティア)による1対1支援や、日本語教師によるはじめての日本語クラス、読み書きクラスなど日本語教育・日本語学習支援を展開するとともに、日本語教育の教材作成や人材育成研修等の現場の体制づくりを推進してきた。</p> <p>しかしながら、在留資格の多様化や新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、ライフスタイルも大きく変化し、オンライン学習の導入など日本語を学びたい人のニーズに合った新しい学習方法を提供する必要がある。</p> <p>地域における日本語教室については、千葉市国際交流協会とともに日本語教育・日本語学習支援に関し大きな役目を担っているが、その開催場所に偏りが見られ、さらに日本語学校においても同様の偏りがあり、日本語を学びたい方が、自分に合った場所で学習できるような環境整備が望まれる。</p> <p>また、千葉市国際交流協会からの提案で、市内の地域日本語教室が集まった「日本語教室ネットワーク情報交換会」では、場所、人員及び教材などの求める意見があった。</p> <p>今後、多様な背景や文化、考え方をを持った住民同士がお互いに理解し合い、生活の基盤である地域社会を創り上げていくためには、日本語教育・日本語学習支援が欠かせない。</p> <p>上記課題に対応し、さらに、調査により把握した広く地域日本語教育に関わる機関・団体の現状や外国人市民の課題やニーズを踏まえた上で、地域における日本語教育を担う各主体の役割分担や体制整備、連携・協力の在り方、日本語教育・日本語学習支援の内容及び方法について、効果的な施策を実施することが求められている。</p>

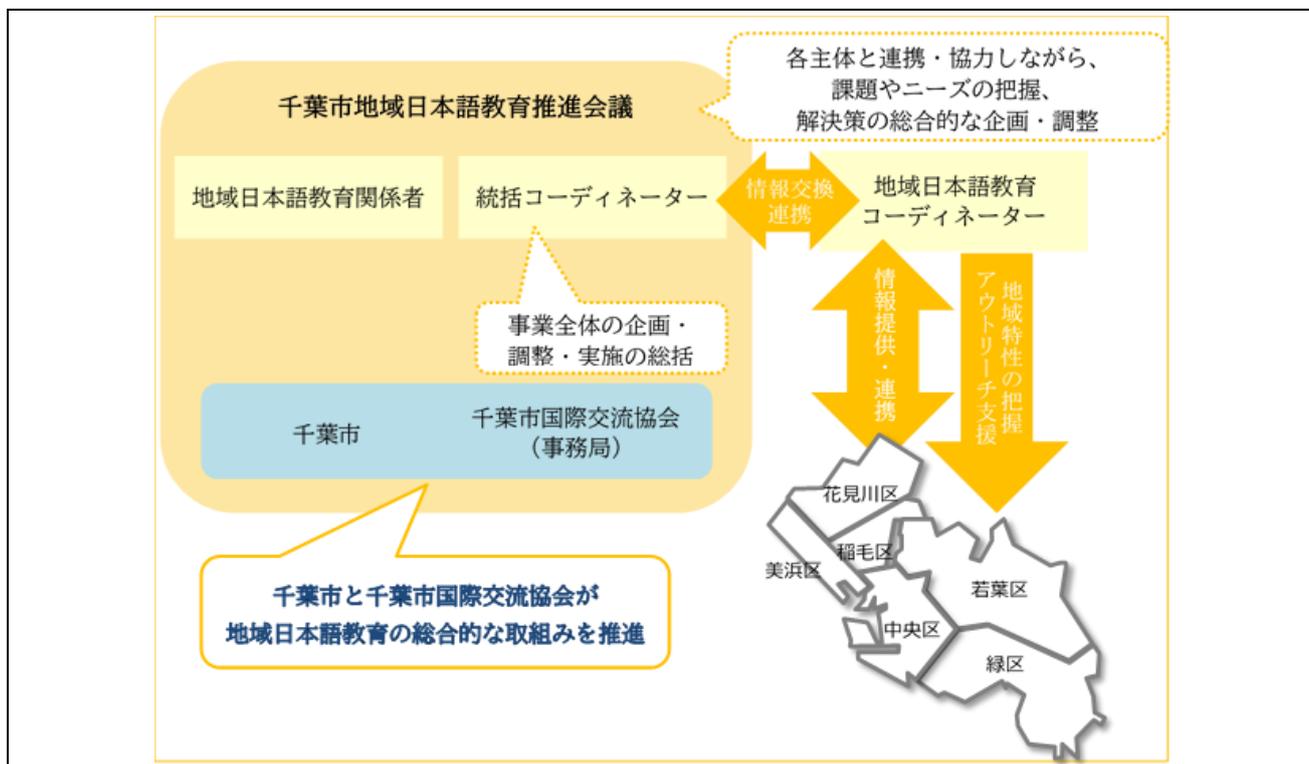
4. 目的

主な事業として以下の3つに取り組んだ。

1. 日本語学習機会の充実を図るため、ICTを含み、日本語学習に係る多様なツール・場所等を用意又は支援し、それぞれの外国人市民に合った学習方法を提供する。
2. 安定した日本語教育・日本語学習支援を継続して提供できるよう、それを担う人材を育成する。併せて、日本語学習支援者のモチベーションを保つためにも、活動の場や研修などの情報提供をする。
3. 効果的に施策に取り組むために、千葉市・千葉市国際交流協会と地域日本語教室等各主体とのつながりを強化する。地域日本語教育に関する情報発信を強化し、外国人市民が自分に合った学習方法を見つけられるようにすると同時に各主体間で情報共有できる環境を整える。

3 事業の実施体制

(1) 実施体制(図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを含めて記載してください。)



《事業の中核メンバー》

	氏名	所属	職名	役割
1	萬浪 絵理	千葉市国際交流協会	コーディネーター	総括コーディネーター
2	田中 久美	千葉市国際交流協会	コーディネーター	地域日本語教育コーディネーター
3	末房 由美子	千葉市国際交流協会	主任主事	事務局
4	鈴木 恵美子	千葉市国際交流協会	主査	事務局
5	荒井 紀子	千葉市	主査	企画・調整

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

- 千葉市国際交流協会：本事業を委託
- 日本語学校、大学：日本語教師や日本語学習支援者の人材育成・人材発掘、新たな日本語教室の設置について連携
- 地域日本語教室：教室情報の共有、教室運営の支援で連携
- 経済関係・企業：日本語クラス周知、やさしい日本語研修の実施などで連携
- 地域・外国人支援団体など：日本語クラス周知、やさしい日本語研修、外国人市民との交流の機会支援などで連携
- 千葉県・公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー：情報共有などで連携

4 令和3年度の事業概要

1. 令和3年度の実施目標				
令和3年度は、千葉市地域日本語教育推進会議（総合調整会議）を開催、総括コーディネーター及び地域日本語コーディネーターを設置し、総合的に地域日本語教育を推進する体制を整備する。また、日本語学習支援者の育成研修及びスキルアップを行い、安定的に学習支援ができる環境を目指す。				
2. 実施内容				
【必須項目】				
(取組1) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	新倉 涼子	千葉大学	名誉教授	専門的知見
2	徳永 あかね	神田外語大学	准教授	専門的知見
3	小川 早苗	双葉外語学校	校長	日本語教育に係る意見
4	宮下 雅美	学校法人瀧澤学園 千葉モードビジネス専門学校	副校長	日本語教育に係る意見
5	宍倉 豊明	千葉商工会議所企画経営部 経営支援課	課長	企業・市内経済に係る意見
6	前原 寛和	社会福祉法人初穂会 ほっと スペース 稲毛ペコリーノ	主任	外国人雇用(介護人材など)に係る意見
7	阿部 雄二	稲浜日本語ボランティア	会長	地域日本語教室に係る意見
8	堀 康二	ベイタウン日本語教室		地域日本語教室に係る意見
9	小林 稔子	美浜こどもにほんご教室		地域日本語教室に係る意見
10	リズキ ダルマワン			外国人生活者に係る意見
11	三浦 テュイ			外国人生活者に係る意見
12	市倉 秀子	千葉市国際交流課	課長	市の施策に関する意見
13	樋口 雅也	千葉市教育委員会学校教育部 教育指導課	課長	児童生徒に関する意見

14	萬浪 絵理	当事業総括コーディネーター		
15	—	—	—	—
②実施結果				
実施回数	3回			
実施スケジュール	令和3年5月13日 第1回千葉県地域日本語教育推進会議 令和3年8月5日 第2回千葉県地域日本語教育推進会議 令和4年2月3日 第3回千葉県地域日本語教育推進会議			
主な検討項目	第1回 千葉県地域日本語教育推進計画説明 令和3年度事業取組内容説明・検討 第2回 令和3年度事業経過報告 5か年計画及び令和4年度令和4年度事業計画説明・検討 5年後の目指す姿及び5か年計画各年度の重点項目等を検討した上で、令和4年度事業計画を検討した。 第3回 令和3年度事業報告 令和4年度事業計画説明			
(取組2-1) 総括コーディネーターの配置				
1. 千葉県国際交流協会に総括コーディネーターを1名配置し、主に以下のことを行った。 ・事業全体の企画・運営・連絡調整 ・大学・企業・NPO・日本語教室の活動状況把握やネットワーク促進				
(取組2-2) 地域日本語教育コーディネーターの配置にむけた取組				
地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 選択した取組に○を記入してください。 地域日本語教育コーディネーターの候補者の育成【()】 千葉県国際交流協会に地域日本語教育コーディネーターを1名配置し、主に日本語クラスや研修の企画・運営・コーディネートを行った。				
(取組2-3) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置				
—				

【重点項目】

(取組3) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

日本語教室への支援、日本語教育拠点整備、日本語教育人材の発掘を目指した連携を実施するために、情報交換会やヒアリングを実施した。

(1) 関係機関へのヒアリング

【時期】 令和3年6月～令和4年1月

【実施機関】

○日本語教室 (5か所)

日本語学習会、稲浜日本語ボランティア、めろんぱん日本語学級、
社会福祉法人さぼうと21稲毛海岸教室、美浜こどもにほんご教室

○日本語学校 (7か所)

双葉日本語学校、TokyoOne日本語学校、千葉モードビジネス専門学校、
新富国際語学院、上野法科ビジネス専門学校、国際トラベルホテルブライダル専門学校、
3H日本語学校

○大学 (4か所)

千葉大学、敬愛大学、淑徳大学、神田外語大学

○企業、その他 (6か所)

東原産業(株)、三協プレス工業(株)、千葉商工会議所、千葉イスラーム文化センター、
ハローワーク千葉、千葉県社会福祉協議会

(2) 情報交換会の実施

①日本語教室意見交換会

【日時】 令和3年6月16日

【実施場所】 オンライン

【参加者】 9団体

【内容】 各教室の特徴や普段からの課題、他と連携についてのアイデアなどを意見交換

②日本語学校情報交換会

【日時】 令和3年7月8日

【実施場所】 オンライン

【参加者】 6団体

【内容】 各学校の現状と課題について情報交換

③NPO等情報交換会

【日時】 令和4年1月20日

【実施場所】 オンライン

【参加者】 4団体

(3) 地域日本語教室への運営支援

【対象】市内日本語教室 5か所

【内容】新型コロナウイルス感染症防止対策品を支援

(取組4) 市区町村への意識啓発のための取組

—

(取組5) 日本語教育人材に対する研修(研修受講者数(実人数): 69人)

(1) 日本語教師初任研修 [新規]

文化審議会国語分科会が平成31年3月に取りまとめた「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改定版」を参考に、「生活者としての外国人」のためのクラス運営を担う「日本語教師初任」の育成を行った。

【開催時期】令和3年10月～1月 71時間 28回

【参加者】7人

【会場】千葉市国際交流プラザ、オンライン

【内容】日本語クラスでのOJTを中心として、生活者対象の日本語教育の特徴、教材の使い方、ふりかえり重視の授業の進め方、日本語学習支援者との協働の方法を研修した。

(2) 日本語学習支援者講座

文化審議会国語分科会が平成31年3月に取りまとめた「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」を参考に、「日本語学習支援者」の育成を行った。主な内容は、多文化共生と日本語交流活動、コミュニケーションスキル、対話活動演習など。

(第1期)

【日時】令和3年6月1日～6月29日 火曜 19:00～21:00 2時間×5回

【参加者】14人

【場所】オンライン

(第2期)

【日時】令和3年9月1日～9月29日 水曜 10:00～12:00 2時間×5回

【参加者】22人

【場所】オンライン

(第3期)

【日時】令和4年1月22日～2月19日 土曜 13:30～15:30 2時間×5回

【参加者】26人

【場所】オンライン

<p>(取組6) 地域日本語教育の実施取り組んだものに○</p> <p>【○】 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育</p> <p>【 】 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育</p>			
実施箇所数	2箇所	受講者数 (実人数)	受講者数：外国人74人 日本語交流員22人
活動1	<p>【名称】 はじめての日本語クラス1</p> <p>【対象】 来日したばかりの人や、今まで日本語を学ぶ機会がなかった生活者</p> <p>【目標レベル】 A1 最初歩の日本語</p> <p>【実施回数】 21回 ((1回2時間) ×7回) ×3コース</p> <p>【内容】 ひらがな、カタカナ、あいさつ、数字、生活で使う短い言葉や文</p> <p>(第1期) 中止</p> <p>(第2期)</p> <p>【日時】 令和3年8月26日～9月16日 火曜・木曜 10:00～12:00</p> <p>【受講者数】 4人</p> <p>【実施場所】 オンライン</p> <p>【講師】 「日本語教師」1人</p> <p>(第3期)</p> <p>【日時】 令和3年11月4日～11月25日 月曜・木曜 10:00～12:00</p> <p>【受講者数】 2人</p> <p>【実施場所】 千葉県国際交流プラザ</p> <p>【講師】 「日本語教師」2人</p> <p>(第4期)</p> <p>【日時】 令和4年1月20日～2月14日 月曜・木曜 10:00～12:00</p> <p>【受講者数】 10人</p> <p>【実施場所】 千葉県国際交流プラザ</p> <p>【講師】 「日本語教師」1人</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>(広報協力)</p> <p>千葉県国際交流センター、出入国管理局千葉港出張所、ハローワーク千葉、千葉市教育委員会教育指導課、千葉市幼保支援課、千葉市住宅供給公社、千葉経済開発公社</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有</p>		

活動 2	<p>【名称】 はじめての日本語クラス 2</p> <p>【対象】 来日間もない人や、今まで日本語を学ぶ機会がなかった生活者</p> <p>【目標レベル】 A1～A2</p> <p>地域の人とつながって生活するため、日本語による日本語能力の獲得</p> <p>【実施回数】 60回 ((1回2時間) × 30回) × 2コース</p> <p>【内容】</p> <p>千葉県国際交流協会オリジナル教材「わたしを伝える日本語」、日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでの暮らし」などを活用し、ひらがな・カタカナの文字学習から、日常生活に密着したトピック（自己紹介、家族・仲間、好きなこと、地域の活動、防災等）に沿って、自分のことを話したり、書いたりする。また、他者の話についてやり取りする。</p> <p>(第1期)</p> <p>【日時】 令和3年5月22日～9月25日 水曜 10:00～21:00・土曜 10:00～12:00</p> <p>【受講者数】 6人</p> <p>【実施場所】 オンライン</p> <p>【講師】 日本語教師 2人、クラス交流員 4人</p> <p>(第2期)</p> <p>【日時】 令和3年10月5日～令和4年2月8日 火曜・金曜 10:00～12:00</p> <p>【受講者数】 10人</p> <p>【実施場所】 千葉県国際交流プラザ</p> <p>【講師】 日本語教師 3人、クラス交流員 4人</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>(広報協力)</p> <p>千葉県国際交流センター、出入国管理局千葉港出張所、ハローワーク千葉、千葉市教育委員会教育指導課、千葉市幼保支援課、千葉市住宅供給公社、千葉経済開発公社</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有</p>
活動 3	<p>【名称】 はじめての日本語クラス 3</p> <p>【対象】 今まで日本語を学ぶ機会がなかった生活者</p> <p>【目標レベル】 A1～A2</p> <p>地域の人とつながって生活するための日本語能力と自律学習能力の獲得</p> <p>【実施回数】 60回 ((1回2時) × 30回) × 2コース</p> <p>【内容】</p> <p>教材「わたしをつたえるにほんご 2 CINGA 版」、日本語学習サイト「つながるひろがる</p>

にほんごでのくらし」などを活用し、日常生活に密着したトピック（毎日の生活、これからしたいこと、地域の情報等）に沿って、自己表現や他社との対話の力を育む。また、防災や健康、ボランティア活動に関するゲストスピーカーの講義・質疑応答などを通じて生活に必要な情報を得ながら日本語運用力を養う。

(第1期)

【日時】令和3年5月18日～9月21日 火曜・金曜 10:00～12:00

【受講者数】6人

【実施場所】オンライン

【講師】日本語教師3人、ゲストスピーカー3人、クラス交流員等7人

(第2期)

【日時】令和3年10月6日～令和4年2月9日

水曜 19:00～21:00・土曜 10:00～12:00

【受講者数】11人

【実施場所】オンライン

【講師】日本語教師2人、ゲストスピーカー3人、クラス交流員等5人

【関係機関との連携】

(ゲストスピーカー講師派遣)

千葉県防災対策課、千葉県社会福祉協議会、千葉県教育委員会教育指導課

(広報協力)

千葉県国際交流センター、出入国管理局千葉港出張所、ハローワーク千葉、千葉県教育委員会教育指導課、千葉県幼保支援課、千葉県住宅供給公社、千葉経済開発公社

標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有

【はじめての日本語クラス1・2・3（活動1～3）受講者募集方法】

千葉県国際交流協会HP・Facebook、日本語教育事業 Facebook・ブログ、千葉県国際交流センターFB などその他関係機関等の SNS での周知、千葉県国際交流協会登録ボランティア・外国人へメール送信、千葉県国際交流プラザでチラシ掲示、出入国管理局千葉港出張所・ハローワーク・小中学校・日本語指導通級教室・区役所・各区保健福祉センター等にちらし掲示・配置、保育所や市内日本語教室を通じて案内、千葉県生活ガイドブックにちらし挟み込み、facebook 広告掲載、千葉県生活情報誌(市政だよりを翻訳したもの)へ案内掲載、市営住宅へちらし掲示、外国人が多い地域でのショッピングセンターチラシ掲示、市内外国食材店へチラシ配布、各戸へちらしポスティング(地域限定)、日本語クラス参加者へ案内

活動 4	<p>【名称】 日本語読み書きクラス</p> <p>【対象】 日本語で会話できるが、読み書きができない人</p> <p>【目標】 ひらがな・カタカナ・漢字の基礎がわかり、簡単な文章の読み書きができる。</p> <p>【実施回数】 20回（（1回2時間）×10回）×2コース</p> <p>【内容】 ひらがな・カタカナの文字学習、漢字学習、作文演習</p> <p>【受講者募集方法】</p> <p>千葉市国際交流協会HP、Facebook、日本語教育事業ブログ、その他関係機関等のSNSでの周知、出入国管理局千葉港出張所、ハローワーク・小中学校・区役所・各区保健福祉センター等にちらし掲示・配置、保育所や市内日本語教室を通じて案内</p> <p>(第1期)</p> <p>【日時】 令和3年6月9日～8月11日 水曜 10:00～12:00</p> <p>【受講者数】 4人</p> <p>【実施場所】 オンライン</p> <p>【講師】 日本語教師1人</p> <p>(第2期)</p> <p>【日時】 令和3年10月6日～12月15日 水曜 10:00～12:00</p> <p>【受講者数】 7人</p> <p>【実施場所】 千葉市国際交流プラザ</p> <p>【講師】 日本語教師1人</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>(広報協力)</p> <p>出入国管理局千葉港出張所、ハローワーク千葉、千葉市教育委員会教育指導課、千葉市幼保支援課、千葉市住宅供給公社、千葉経済開発公社</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有</p>
活動 5	<p>【名称】 にほんごで はなすかい [新規]</p> <p>【対象】 日本人や他の外国人と交流しながら実践的な日本語運用力および対話の力を付けたい人</p> <p>【目標】 テーマに沿って自分のことが語れ、他者の話が理解できる。お互いの文化背景や日本語力に配慮しながら対話できる。</p> <p>【実施回数】 27回（1回1時間）</p> <p>【受講者数】 14人（のべ52人）</p> <p>【日本語交流員】 22人（のべ98人）</p> <p>【実施場所】 オンライン</p>

	<p>【受講者募集方法】</p> <p>千葉市国際交流協会HP、Facebook、日本語教育事業ブログ、その他関係機関等のSNSでの周知、出入国管理局千葉港出張所、ハローワーク・小中学校・区役所・各区保健福祉センター等にちらし掲示・配置、保育所や市内日本語教室を通じて案内</p> <p>【内容】 毎回テーマにそって小グループで会話</p> <p>【開始した月】 7月～</p> <p>【講師】 5人（うち日本語教師4人）</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有</p>
<p>その他の取組（取組7～14のうち、取り組んだものについて記載）</p>	
<p>(1) 自治会や企業等への「やさしい日本語」研修</p> <p>【対象】 自治会や企業等、生活や仕事において外国人と接する人</p> <p>【目標】 日本語に慣れていない外国人に対して、わかりやすい日本語を使うことができる。</p> <p>(第1回)</p> <p>【日時】 令和3年11月17日 10:00～12:00</p> <p>【参加者】 7人</p> <p>【実施場所】 千城台コミュニティセンター</p> <p>【講師】 伊藤美代子氏</p> <p>(第2回)</p> <p>【日時】 令和3年11月24日 13:30～15:30</p> <p>【参加者】 10人</p> <p>【実施場所】 花見川団地第2集会所</p> <p>【講師】 伊藤美代子氏</p> <p>(第3回)</p> <p>【日時】 令和3年12月14日 18:00～20:00</p> <p>【参加者】 12人</p> <p>【実施場所】 轟公民館</p> <p>【講師】 萬浪絵理氏</p> <p>(第4回)</p> <p>【日時】 令和3年12月16日 14:00～16:00</p> <p>【参加者】 12人</p> <p>【実施場所】 美浜保健福祉センター</p> <p>【講師】 伊藤美代子氏</p>	

(第5回)

【日時】令和4年1月15日 13:30～15:30

【参加者】 17人

【実施場所】オンライン

【講師】伊藤美代子氏

(第6回)

【日時】令和4年1月26日 13:30～15:30

【参加者】 2人

【実施場所】オンライン

【講師】伊藤美代子氏

(2) 事業広報・成果報告

【内容】

Facebook やブログ、ちらし、説明会、SNS 広告、ポスティング等により、広く事業の広報を実施。

Facebook <https://www.facebook.com/ccianihongo2>

ブログ <https://chibashi-nihongo.blogspot.com/>

2-2. 市区町村の日本語教育の取組への支援

(取組15) 市区町村を支援して実施する日本語教育

(1) 地域日本語教室への運営支援

【対象】市内日本語教室 5か所

【内容】新型コロナウイルス感染症防止対策品を支援

(取組16) 取組15以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育

—

3. 効果

(1) 令和3年度の実施目標に対する評価

①令和3年度の実施目標（年度当初に設定した目標を再掲）

令和3年度は、千葉市地域日本語教育推進会議（総合調整会議）を開催、総括コーディネーター及び地域日本語コーディネーターを設置し、総合的に地域日本語教育を推進する体制を整備する。また、日本語学習支援者の育成研修及びスキルアップを行い、安定的に学習支援ができる環境を目指す。

②達成状況

千葉市地域日本語教育推進会議（総合調整会議）の設置を通じ、日本語教室、日本語学校、介護施設、経済団体等のさまざまな機関と連携を強化することができた。更に3回実施した会議を通して、今年度の取組とともに、5年後の目指す姿及び5か年計画を検討し、令和4年度事業計画を策定することができた。

日本語教育については、一定数の教育が実施でき、アンケートではほとんどの参加者が「満足している」と回答している。

人材育成について、日本語教師研修参加者7名のうち6名が次年度の日本語クラス担当を予定している。また、支援者講座参加者62名についても、講座終了時において既に活動先を決めている人が5割を超えており、日本語教育に携わる一定の人材の確保ができたと考えられる。なお、アンケートではほとんどの参加者が「満足している」と回答している。

各主体とのつながりの強化について、ヒアリングが情報交換会を通じ、各主体とのネットワークができた。また、日本語教室に対し、新型コロナウイルス感染症防止対策品の支援をすることができた。

(2) 個別の取組に対する評価

①定量評価

- ・総合調整会議：前年度（－）回 当年度（3）回
- ・総括コーディネーター配置数：前年度（－）人 当年度（1）人
- ・地域日本語教育コーディネーター配置数：前年度（－）人 当年度（1）人
- ・実施した日本語教育人材に対する研修：（－）回（－箇所） 当年度（43）回（ 箇所）
- ・実施した日本語教室：前年度（－）回（－箇所） 当年度（140）回（ 箇所）

①-2 実施計画書において設定した目標に対する定量評価

- 人材育成人数：目標50人 実施後69人
- 日本語クラス参加人数：140人 実施後74人
- やさしい日本語研修参加人数：90人 実施後60人

②定性評価

(i) 連携機関の広がりについて

千葉市地域日本語教育推進会議（総合調整会議）の設置を通じ、日本語教室、日本語学校、介護施設、経済団体等のさまざまな機関と連携を強化することができた。更に3回実施した会議を通して、今年度の取組とともに、5年後の目指す姿及び5か年計画を検討し、令和4年度事業計画を策定することができた。

日本語教室（5か所）、日本語学校（7か所）、大学（4か所）、企業・その他（6か所）へのヒアリングと、日本語教室（9団体）、日本語学校（6団体）、NPO等（4団体）が参加した情報交換会を通じて、様々な角度から課題把握を行うことができ、今後の連携の取り組みについて具体的な意見や案を得ることができた。特に、日本語学校、NPO等と新たなネットワークを築くことができた。

(ii) 新たな連携機関と連携した内容

やさしい日本語研修では、千葉市社会福祉協議会と連携して民生委員や児童委員向けに、また、市民自治関連部署を通じて町内自治会向けに、さらに、公民館と連携して公民館を利用する市民団体や一般市民向けに研修を行った。周知にあたっては、千葉市産業振興財団と連携した研修もあった。

また、日本語クラスの開催に関しては、千葉市幼保支援課、千葉市住宅供給公社や千葉経済開発公社と連携してちらしを配布し、広報を行った。

(iii) どのような体制を構築できたか

今年度は総合調整会議の設置、総括コーディネーター・地域日本語教育コーディネーターの配置を行い、千葉市における日本語教育推進のための体制づくりの基礎を築くことができた。

また、推進計画に基づき、日本語教育や日本語支援を行う人材の育成研修を実施し、ある程度の人材の確保ができた。このことにより、日本語教育の機会拡充と質の向上のための基盤づくりが促進された。

更に、学習支援者研修や、やさしい日本語研修を通じて、地域と外国人市民を仲介する人々を増やすことができた。

(iv) 事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について

以下のとおり、日本語クラスや研修、講座の周知を実施した。

- ・千葉市国際交流協会HP・facebook、千葉市日本語教育事業 facebook・ブログでの周知、千葉県国際交流センターfacebook などその他関係機関等の SNS での周知
- ・facebook 広告掲載
- ・千葉市国際交流プラザでちらし掲示、出入国管理局千葉港出張所・ハローワーク・小中学校・日本語指導通級教室・区役所・各区保健福祉センター等にちらし掲示・配置、保育所や市内日本語教室を通じて案内、千葉市生活ガイドブックにちらし挟み込み、市営住宅へちらし掲示、外国人が多い地域でのショッピングセンターへちらし掲示、市内外国食材店へちらし配布
- ・千葉市生活情報誌(市政だよりを翻訳したもの)へ案内掲載
- ・各戸へちらしポスティング(地域限定)
- ・千葉市国際交流協会登録ボランティア・外国人へ案内をメール送信
- ・日本語クラス参加者へ案内

4. 課題と今後の展望

(1) 課題と困難な状況への対応方法

日本語教育について、日本語クラス参加者数が当初の想定よりも少なかった。これまでの広報方法に加え保育所・小中学校を通じたチラシの配布や SNS 広告、外国人市民の多い地区へのチラシポスティング等を行った。

また、受講希望者のニーズ(参加しやすい時間・手法)を把握しきれていない、参加者のクラス終了後の生活や地域参画における変化を把握していない等の課題があった。なお、参加者の満足度は非常に

高いことはアンケートから把握できている。

人材育成について、修了者の活躍機会の提供及び修了者へのフォローアップが課題となっている。

つながり強化について、ヒアリングや情報交換会を実施したが、連携の具体的な方策が見いだせなく、各主体とのつながりを作ることが中心となった。

なお、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、実施方法をオンラインに変更する取組みがあった。その場合は、事前の説明会などできめ細かく対応し、ICT が不慣れ参加者でもオンラインでの参加がスムーズになるよう配慮した。また、対面の場合は、感染症対策に十分配慮したうえ実施した。

(2) 今後の展望

日本語教育は、参加者を増加させるため、重点対象者が参加しやすい講座及び広報を実施する。

重点対象者については、令和2年度実施地域日本語教育実態調査及び令和3年度受講者在留資格内訳から、日本語学習のニーズが高いと推察される資格であるため、引き続き「家族滞在」「日本人配偶者」「永住者の配偶者」等とし、より参加しやすくなるよう、料金や実施曜日・時間等実施方法に工夫を凝らしていくと同時に、アンケート調査などで希望時間帯等のニーズの把握に努める。これにより、これまで日常生活で日本語を話す機会のなかった外国人市民の地域社会とのつながりの創出が期待できる。

また、参加者のクラス終了後の生活や地域参画における変化について受講後のフォロー調査を実施し、生活や地域参画における変化の把握を目指すとともに、今後の日本語学習者への周知にも活かすことで、日本語学習の動機づけを行う。

人材育成では、研修修了者への活躍機会の提供とフォローアップを行い、活動の安定化を後押ししていく。日本語学習が市内の多様な地域活動における日本語コミュニケーションをとおして促進されるよう、これらの場と外国人市民をつなぐことができる人々を育成の対象に含める。これにより、外国人を地域につなぐ仲介者の確保が期待できる。

つながり強化については、今年度にできたつながりを活かしつつ引き続きヒアリングや情報交換会を実施し、具体的な連携の形を検討する。また、アウトリーチ支援については人的支援を検討する。なお、日本語交流員研修、やさしい日本語研修の受講者等が仲介者として活躍する団体等をリスト化して外国人市民に紹介する仕組みを検討し、外国人と地域がつながりやすい社会実現を目指す。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
5-1	日本語教師初任研修
	
6-1	はじめてのクラス1
	
6-1	日本語読み書きクラス
	

その他

やさしい日本語研修



【参考資料一覧】

取組番号	資料名	NEWS 掲載
3・5・6	参加者アンケート集計結果	
6	ちらし	○